

南相馬市鹿島区真野地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- FOEAS（地下水水位制御システム）ほ場活用による収量・品質の安定化を目指す。
- 農用地利用改善団体の農地集積調整により作付面積拡大を図り、水稻・大豆のブロックローテーションを適正に実施する。
- 大豆所得の試算、水稻・大豆のブロックローテーション体系を推進する。

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3年作付面積】水稻：46.8 ha、大豆：6.9ha、牧草：7.0ha、畜産：70頭
- H17年より大豆を導入し、水稻、大豆のブロックローテーションに取り組む。
- 基盤整備を契機に、R2年からFOEASほ場で大豆を作付け



大豆収穫作業の様子

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた品種選定>

- H28年に「里のほほえみ」を試験的に導入
- 脱粒性や青立ちが少なく、作業性がよいことから、H30年に全面積品種転換

<品目別に団地化したブロックローテーションの実施>

- 作期が異なる品目を組み合わせたブロックローテーションを行うことで、労力分散、適期作業を実施
- 南相馬市鹿島区の基盤整備実施3地区で担い手に位置づけられ、大豆ほ場の団地化、面積拡大に取り組む

<FOEASを活用した大豆栽培の実施>

- FOEASほ場に大豆を作付けし、播種後及び開花期頃は計画的に灌水処理を実施



FOEASによる開花期以降の畝間灌水の様子

4 取組成果

<FOEASほ場活用等による収量確保>

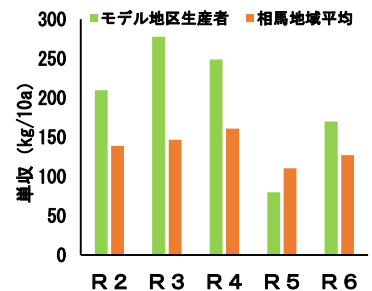
- FOEASほ場での適切な灌水処理やブロックローテーション、適期作業の徹底により、概ね相双地域平均を上回る収量を確保

<作付面積の拡大>

- 農用地利用改善団体による地域の合意のもと、大豆の作付面積を拡大
R3年：6.9ha → R6年：13.3ha

<安定した農業所得の確保>

- R5年産の大豆収支（10aあたり）
収入 86,305円(交付金含む) - 支出 84,939円 = 所得 1,366円



※R6年相馬地域平均は2月15日時点

5 課題（7年度のポイント）

- 開花期以降、気候条件にあわせて、FOEASによる地下水水位制御を行い、収量向上に繋げる。
- 水稻・大豆輪作体系における収支の試算を行う。